

設問1. 空欄となっている（ ）に選択肢の中から選んで記入してください。

第3条 競技者

交代要員は、次の条件において競技のフィールドに入ることができる。

- ・プレーが（ ① ）されている。
- ・（ ② ）のところから。
- ・交代によって退く競技者が競技のフィールドの（ ③ ）に出た。
- ・（ ④ ）の合図を受けたのちに。

第5条 主審

負傷

・競技者の負傷が軽い場合、ボールが（ ⑤ ）になるまでプレーを続けさせる。
・競技者が重傷を負った場合、プレーを（ ① ）し、確実にその競技者を競技のフィールドから（ ⑥ ）させる。負傷した競技者が競技のフィールド内で治療を受けることはできず、プレーが（ ⑦ ）された後に復帰する。ボールがインプレー中は（ ⑧ ）からのみ復帰することができるが、ボールがアウトオブプレー中であれば、いずれの境界線からであっても復帰できる。競技のフィールドから退出する要件につき、次の場合のみ例外とする。

- ・（ ⑨ ）が負傷したとき。
 - ・（ ⑨ ）と（ ⑩ ）が衝突し、対応が必要なとき。
 - ・（ ⑪ ）の競技者が衝突し、対応が必要なとき。
 - ・（ ⑫ ）な負傷が発生したとき。
 - ・相手競技者が（ ⑬ ）される、または退場を命じられるような体を用いた反則（例えば、無謀な、または著しく不正なファウルとなるチャレンジ）の結果として競技者が負傷したが、負傷の程度の判断と治療がすばやく完了できるとき。
 - ・（ ⑭ ）が与えられ、負傷した競技者がキッカーとなったとき。
- ・（ ⑮ ）した競技者を確実に競技のフィールドから離れさせる。その競技者は、止血および用具に血液が付着していないことが十分に確認された後、（ ④ ）の合図を受けてからのみ復帰できる。

第11条 オフサイド

競技者が次のことからボールを直接受けたとき、オフサイドの反則にはならない。

- ・(⑩)
- ・(⑪)
- ・(⑫)

第14条 ペナルティーキック

ペナルティーキックを行う競技者は、明らかに(⑬)されなければならない。

キッカーとゴールキーパー以外の競技者は、次のように位置しなければならない。

- ・(⑭)から少なくとも(⑮) m 離れる。
- ・(⑯)の後方。
- ・競技のフィールドの(⑰)。
- ・ペナルティーエリアの(⑱)。
- ・ペナルティーキックを行う競技者は、ボールを(⑲)にけらなければならない。ボールが(⑲)に動くのであれば、バックヒールも認められる。

ボールがけられるとき、守備側ゴールキーパーは、少なくとも(⑳)の一部をゴールラインに触れさせているか、ゴールラインの上方、または(㉑)に位置させておかなければならない。

【選択肢】

- ・ペナルティーキック ・コーナーキック ・ゴールキック・直接フリーキック
- ・スローイン ・出血 ・主審・アウトオブプレー・インプレー
- ・警告 ・ゴールキーパー ・同じチーム ・相手チーム
- ・フィールドプレイヤー ・重篤 ・ゴールライン ・タッチライン
- ・停止 ・退出 ・ハーフウェーライン ・中 ・外 ・特定
- ・ペナルティーマーク・前方・両足・片足・後方・9.15・4

設問2. 直接フリーキックが与えられる反則を4つ述べよ (例) ハンド
※ハンドを除く4つを述べよ

設問3. 警告となる反則を3つ述べよ

設問4. 退場となる反則を3つ述べよ

設問5. 下記の状況を読み、正しい対応を選択してください。

I. ロングスローが行われた。ロングスローされたボールが他の競技者の誰にも触れることなく相手のゴールに入ってしまった。

対応

- ① ゴールを認めて、キックオフで再開
- ② ゴールを認めず、相手チームのゴールキックで再開
- ③ ゴールを認めず、スローインをやり直す。
- ④ ゴールを認めず、コーナーキックで再開

II.ペナルティーエリア内でボールをプレーしようとして反則を行い、相手競技者の決定的な得点の機会を阻止した。主審は、ペナルティーキックを与えた。

対応

- ① 反則を犯した競技者に反スポーツ的行為により警告する
- ② 反則を犯した競技者に退場を命じる。
- ③ 反則を犯した競技者への懲戒処置（カード）はなし
- ④ 反則を犯した競技者に相手競技者の決定的な得点機会を阻止したことにより警告する。

III. 試合中のペナルティーキック。ボールが蹴られる前に守備側競技者が明らかにペナルティーエリア内に入ってしまった。ただ、ペナルティーキックは、成功した。（ボールがゴールにはいった。）

対応

- ① ペナルティーキックをやり直す
- ② ボールがけられる前にペナルティーエリア内に侵入していた守備側競技者を警告し、ペナルティーキックをやり直す。
- ③ ゴールを認める。キックオフで再開。
- ④ ゴールを認める。ボールがけられる前にペナルティーエリア内に侵入していた守備側競技者を警告し、キックオフで再開。

IV. 競技者がけったボールがペナルティーエリア内にいる主審に当たり、そのままゴールに入ってしまった。

対応

- ① ゴールを認めて、キックオフで再開
- ② ゴールを認めず、ゴールキックで再開
- ③ ゴールを認めず、間接フリーキックで再開
- ④ ゴールを認めず、ゴールキーパーへのドロップボールで再開

V. ゴールが狙える位置での間接フリーキック。

間接フリーキックが直接、相手ゴールに入ってしまった。

対応

- ① ゴールを認める
- ② 間接フリーキックのやり直し
- ③ ゴールを認めず、相手チームのゴールキックで再開
- ④ ゴールを認めず、コーナーキックで再開

設問6.

第12条 ファウルと不正行為

不用意、無謀、過剰な力を用いるについてそれぞれ述べよ

・不用意とは

・無謀とは

・過剰な力を用いるとは

設問7. 間接フリーキックとなる反則を4つ述べよ

設問8. 交代要員または交代して退いた競技者が警告される行為を3つ述べよ

設問9. 下記の再開方法は、いつインプレーとなるかそれぞれ述べよ

・コーナーキック

・スローイン

・ゴールキック

・ペナルティーキック

設問 10.

反スポーツ的行為の具体例を3つ述べよ

設問 11.

() にあてはまる語句を述べよ

第11条 オフサイド

オフサイドポジションにいることは、(①) ではない。

競技者は、次の場合、オフサイドポジションにいることになる。

・(②)、(③) もしくは(④) の一部でも、相手競技者の(⑤) 内にある((⑥) を除く)。そして、

・競技者の(②)、(③) もしくは(④) の一部でも、(⑦) および(⑧) から(⑨) 人目の相手競技者より相手競技者の(⑩) に近い位置にある。

(⑪) を含むすべての競技者の(⑫) や(⑬) は、含まれない。オフサイドの反則を判定するにあたり、腕の上限は、脇の下の最も奥の位置までのところとする。

競技者は、次と同じレベルにいる場合、オフサイドポジションにいないことになる。

・(⑧) から(⑨) 人目の相手競技者、または、

・(⑭) 方にいる(⑨) 人の相手競技者